

第12回 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム

「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの成果と次期の展望 ～新型コロナウイルス感染症により注目されるワンヘルスアプローチの重要性～」開催される

令和2年12月3日(木)、日本医師会と日本獣医師会の共同主催による第12回日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの成果と次期の展望 ～新型コロナウイルス感染症により注目されるワンヘルスアプローチの重要性～」が、Web配信により、農林水産省の委託を受け、厚生労働省の後援のもと、380名の視聴者を得て成功裏に開催された。

なお本シンポジウムでは、日本医師会の中川俊男会長の開会挨拶、医療分野の前田稔彦氏、獣医療分野の呉克昌氏、高橋佐和子氏、厚生労働省の中山美恵氏の講演は、事前収録による動画での配信となった。

まず、日本医師会を代表して中川俊男会長から開会挨拶が行われ、続いて日本獣医師会から藏内勇夫会長の挨拶が行われた。

【日本医師会 中川俊男会長挨拶】



日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの成果と次期の展望～新型コロナウイルス感染症により注目されるワンヘルスアプローチでの取り組み～」の開催にあたり、日本医師会を代表してご挨拶を申し上げます。

はじめに、日本獣医師会におかれましては、新型コロナウイルス感染症流行による医療物資が入手困難であるさなかの、本年5月22日、本会に対しまして、医療用等マスク6万枚をご寄贈いただきました。ご厚情を賜りましたこと、この場をお借りして、あらためまして深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、11月に入り感染者の急増はさらに強まっております。社会・経済活動や国際的な往来が徐々に再開されるなか、国内のみならず、国際的な感染症対策が重要となりますが、医療、獣医療等の関係者がより一層連携し、一体的な感染症対策の推進

に繋げていく必要があると考えております。

さて、日本医師会におきましては、これまでワンヘルス・アプローチの概念のもと、2013年11月の日本獣医師会との間で学術協力の推進のための協定書を締結し、一体的な感染症対策等の実施に取り組んできたところであります。

2016年11月の「第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議」でとりまとめられた「福岡宣言」におきましては、「医師と獣医師は、抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する」ことが盛り込まれ、具体的な取組みが求められております。

一方、国においては、「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン2016-2020」を策定し、2020年までの目標値を掲げ、さまざまな取組みを行っているところであります。

本日のシンポジウムの第一部では、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書」をとりまとめている厚生労働省の検討会の渡邊先生、田村先生より「アクションプラン2016-2020の取組みと今後の課題」について、第二部では、「医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の取組みなど」について、先生方よりお話を伺うことになっております。

こうしたシンポジウムなどを通じて、医師、獣医師に対しAMR対策の必要性への理解を深めるとともに、患者さんやご家族に丁寧に説明することにより、国民全体の理解を醸成していくこともわれわれに課せられた使命だと考えており、日本医師会といたしましても、関係者の更なる連携のもと、実効ある取組みを進めてまいり所存です。

本日ご参加の皆様方にとりまして、本シンポジウムが実りあるものとなりますことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

【日本獣医師会 藏内勇夫会長挨拶】

本日は、日本医師会・日本獣医師会の連携シンポジウム「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの成果と次期の展望」が、多数の皆様のご参加のもとに開催できますことを、日本獣医師会を代表して心から厚く御礼申



し上げます。

この連携シンポジウムも、今回で12回目を迎えることになりました。これまで農林水産省、厚生労働省のご支援をいただく中で、日本医師会・日本獣医師会のそれぞれの医師・獣医師が、情報を共有する場として設けさせていただきました。

このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、医療や社会経済に大きな影響が生じています。そのため感染防御を第一に考え、このシンポジウムもWeb開催といたしました。400名を超える方々から参加のお申込みをいただくことができました。この新型コロナウイルス感染症も動物由来の人と動物の共通感染症と言われており、その対策を講じるうえで、人と動物の健康及び環境保全を一体的に推進する“One Health”アプローチの重要性が一層高まっています。

日本獣医師会では、国境を超えて広範な地域にまん延する人と動物の共通感染症や、本日のテーマである薬剤耐性（AMR）問題の拡大が懸念される中、平成22年に「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を、われわれ日本獣医師会の活動指針として取組み、“One Health”の考え方を取り入れ、情報共有等を促進してまいりました。

先程、日本医師会の中川会長のご挨拶にありまして、平成25年には日本医師会と日本獣医師会との間で、学術協力の推進に関する協定を締結した後、地域の医師会、地方獣医師会においても協定が締結され、日本全国で“One Health”の実践体制が構築されております。

今回の連携シンポジウムでは、医療と獣医療の両分野にとっての重要課題の一つである薬剤耐性（AMR）対策を取り上げ、第一部の特別講演の講演者として、医療分野からは国立感染症研究所名誉所員 渡邊治雄先生、獣医療分野からは酪農学園大学名誉教授 田村 豊先生をお招きいたしました。第二部では、医療分野と獣医療分野における薬剤耐性への取組みの具体例を紹介していただき、厚生労働省と農林水産省の担当官からAMR対策の現状と対策について解説をしていただきます。

ご多忙の中、ご出席またはウェブでご講演いただきます講演者の皆様方には、心から御礼申し上げます。

最後に、本日ご参加いただいた皆様方に改めて厚く御礼申し上げますとともに、中川俊男会長、横倉義武名誉会長をはじめ、日本医師会関係者の皆様、そして開催をご支援いただきました農林水産省、厚生労働省の皆様方に心から感謝を申し上げまして、私の挨拶といたします。

【第一部：特別講演「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2016-2020」の取組みと今後の課題】

第一部の特別講演では、渡邊治雄 国立感染症研究所名誉所員から「医師側の提言：ヒトを中心とした薬剤耐性（AMR）対策プランの成果と今後」について講演が行われた後、続いて、田村 豊 酪農学園大学名誉教授から獣医師側の提言：次期アクションプランに向けた動物と環境由来耐性菌の現状と課題」について講演が行われた。

【第二部：医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の紹介】

第二部では、「医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の紹介」として、医療分野と獣医療分野の第一線で活躍する識者から「医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の取組」の講演が行われるとともに、「医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の現状と対策」として、厚生労働省と農林水産省から講演が行われた。

それぞれの内容は以下のとおり。

【医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の取組みなど】

- ・医療分野：「開業医での抗菌薬適正使用の実践
～グラム染色検査の活用～」
前田稔彦（まえだ耳鼻咽喉科クリニック院長）
- ・医療分野：「AMR臨床リファレンスセンターでの薬剤耐性菌対策の普及啓発」
松永展明（AMR臨床リファレンスセンター臨床疫学室長）
- ・獣医療分野：「グループシステム移行での生産性向上、事故率の低減、抗菌剤使用量の削減」
呉 克昌（㈱バリューファーム・コンサルティング代表取締役）
- ・獣医療分野：「病原菌と戦わない環境づくりで、生産性の向上、抗菌剤使用の削減」
高橋佐和子（高橋とんとん診療所院長）
- ・獣医療分野：「愛玩動物における抗菌薬慎重使用の推進の取組 ―抗菌薬の慎重使用の手引きの作成―」

松田真理（農林水産省動物医薬品検査所主任研究官）

【医療分野及び獣医療分野における薬剤耐性対策の現状と対策】

- ・「国内の医療分野におけるAMR対策の現状と対策」
中山美恵（厚生労働省健康局結核感染症課課長補佐）
- ・「国内の獣医療分野におけるAMR対策の現状と対策」

川西路子（農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課課長補佐）

シンポジウムの最後に、川西路子 農林水産省消費・安全局畜産安全管理課課長補佐から閉会挨拶が行われた。

【農林水産省消費・安全局畜産安全管理課 川西路子 課長補佐 閉会挨拶】



本日は大変長時間にわたりシンポジウムにご参加いただきましてありがとうございました。また、現在、新型コロナウイルスがこのような状況の中、会場でご講演をいただいた先生方、本シンポジウムを開催いただきました日本医師会、日本獣医師会の皆様方に御礼申し上げます。

現在、薬剤耐性対策は新型コロナウイルス感染症の陰に隠れているような状況ではありますが、薬剤耐性に関する問題は以前と変わっていません。もし、抗菌薬を不適切に「濫用する」「過剰投与する」等の使用をして

しまいますと、薬剤耐性菌は増え、人や動物の治療が困難になります。非常に重要なツールである抗菌薬が、子どもたちやさらに後世の世代において、必要な時に使用を続けることができるよう、私たちは引き続き抗菌薬の慎重使用を続けていかなければならないと考えております。農林水産省では、内閣官房、厚生労働省等の関係省庁と連携して、これからも薬剤耐性対策を続けてまいりますので、今後、シンポジウムにご参加いただいた皆様方にもご協力を仰ぐことがあるかと思いますが、引き続きご協力をいただければと思います。

また、この後ご案内があると思いますが、今回のシンポジウムのアンケートをお書きいただく際、今後、農林水産省で取り組むべき事項や、これまでに実施された薬剤耐性対策の中で有効な事例、その他、農林水産省への厳しいご意見でも結構ですので、是非アンケートにご回答いただければありがたいです。

長時間にわたりましてシンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いたします。



渡邊治雄 国立感染症研究所名誉所員



田村 豊 酪農学園大学名誉教授



松永展明 AMR 臨床リファレンスセンター臨床疫学室長



松田真理 農林水産省動物医薬品検査所主任研究官